【製品安全＆リコール対策を実現する２つのキーワード】

すべての業種(製造・卸・小売業)に必須！ 新ISO規格を踏まえた

取扱説明書の作り方と製品安全情報の有効活用

具体例から学ぶ製品安全対策と製造物責任への対応

製品が安全であること、製品に起因する事故がないことはモノづくり企業にとって当然の願いです。しかし現実には事故を起こした企業が製造物責任を問われ、製品のリコールや賠償に追われる事例が後を絶ちません。本セミナーでは製品安全を担う書類である取扱説明書の作成をベースに、**いかにして顧客と企業を製品事故から守るのか、自社製品に関する安全情報を社内でどのように一元化し有効活用していくか**、あるいは**事故が起こった場合にどれだけ適切に対応できるか**を、具体例を交えながらそのノウハウを解説いたします。

◆ **開催日時**　2013年 **10月23日(水)**
午前10時～午後5時

◆ **会　場**　**大阪府工業協会研修室**
大阪市中央区本町4丁目2－5

◆ **受講費**　1名につき　会員企業の方　**24，150 円**
※いずれも消費税込み　会員以外の方　**29，400 円**

振り込み先　・三井住友銀行　備後町支店　当座 №201068
・三菱東京ＵＦＪ銀行 信濃橋支店 当座 №321966
・りそな銀行　大阪営業部　当座 №1027054

◆ **講　師**　株式会社 コシダアート 執行役員
取説マスタープロデューサー
正木 秀樹 氏

1973年和歌山県出身。1997年に取扱説明書などのドキュメント作成およびコンサルティングを手掛ける㈱コシダアートに入社。デザインコンサルティング、アートディレクションなど多くの実績を積んできた。
日本テクニカルデザイナーズ協会のPLアドバイザー兼テクニカルデザイナー資格を有し、製品安全対策とデザインを組み合わせて、企業やブランドの新たな価値創造をサポートしている。また、取扱説明書に関する製品安全対策セミナーの講師としても活躍している。

申し込み方法　下欄の受講申込書をFAXで当協会宛にお送りください。
折り返し、受講票・会場案内図、請求書および振込用紙をお送りいたします。
※開催前々日以降に取消しの場合、受講費を全額ご負担いただきますので、代理の方がご出席ください。

お申し込み、お問い合わせはこちらへ・・・・・
≪主催≫ 公益社団法人 大阪府工業協会
〒541-0053 大阪市中央本町４丁目２－５
ＴＥＬ 06-6251-1138　ＦＡＸ 06-6245-9926

受講申込書　取扱説明書の作り方と製品安全情報の有効活用

会社名			受講者	所属部署・役職名	氏　名	
所在地	〒　　－					
電話番号		ＦＡＸ				
			主要製品		従業員数	名

◎申込担当者（受講票・請求書のお送り先）
所属部署名・役職名　　氏 名

◎受講費
（　　）名分　合計）　　円
月　　日　　銀行より振込予定

お申し込みは ⇒公益社団法人 大阪府工業協会　業務部 **FAX 06－6245－9926**

No..6231- 0673 KJN

※申込書にご記入いただいた内容は、事務処理(受講票・請求書の発行等)・担当講師への受講者名簿提示のほか、研修案内の送付に利用させていただく場合がございます。なお、内容の訂正・利用停止をご希望の場合、当協会までご連絡ください。

1 「製品安全」をめぐる最近の動向と企業のリスク対応

〔１〕製品安全に対する義務・責任の明確化

〔２〕製品安全とコンプライアンス

〔３〕新しいＩＳＯ規格【ISO10377・製品安全ガイドライン】【ISO10393 製品リコールガイドライン】

＊トップマネジメントの重要性
＊過去に起こった製品事故の原因と対策
＊製品安全情報の重要性
＊ユーザーへの危険の周知徹底
＊製品事故防止と円滑な製品リコール実施のための課題
＊流通事業者における製品安全ガイド
＊サプライチェーン全体での製品安全マネジメント

〔４〕各製品安全ガイド規格への対策

2 「製品安全」の考え方に基づく取扱説明書の作成

〔１〕取扱説明書の位置づけと安全対策　取扱説明書が持つさまざまな役割と意味

〔２〕取扱説明書に求められる「品質」

①「表現力と解説力の高さ」　② 説明不足を起こさない適正な編集項目

〔３〕精度の高い取扱説明書とは

① 制作内容に必須の構成要件　② 取扱説明書の表記項目
③ デザインと形態　④ 取扱説明書における安全対策の基本条件

〔４〕表記のリスクアセスメント　＜危険の洗い出し＞

① ユーザー視点で「予見可能な誤使用」を抽出する
② エビデンス（表記の根拠）を保持する

≪取扱説明書の作成事例の紹介≫

3 自社データベースで製品安全情報を一元化し活用

〔１〕作成者の個人的な判断によらない取扱説明書を作る

① 制作者のスキルに依存した制作手法のリスクとは？
② 取扱説明書の表記項目の標準化を社内で確保する
③ 取扱説明書の編集ノウハウを標準化する

〔２〕説明文章のテキスト評価改善

〔３〕製品属性、関連品、交換部品の情報

① 各種操作手順マニュアルの構築

〔４〕製品に関連する情報の登録

〔５〕企業内における製品安全情報の構築課題と解決策

〔６〕安全な製品情報表示システム【ＳＩＳ】とは

4 中堅･中小製造業の製品安全アフターサービス

〔１〕製品安全とアフターサービスの関係

〔２〕収益源となるアフターサービスの強化

〔３〕具体的なアフターサービスシステムの実践プログラム

5 事例に学ぶ、取扱説明書の作成と活用

≪事例紹介１≫「ＰＬリスクを軽減する取扱説明書の作成例」

≪事例紹介２≫「取扱説明書を基軸とした、ビジネス戦略の展開手法」

※当日に自社の取扱説明書をご持参いただきますと、講師による中身の無料診断を行います。
後日講師からセミナー内容を踏まえた、改善ポイントをお伝えいたします。